

1. 池袋副都心交通戦略の更新について

(1) 目的

- 池袋副都心交通戦略が策定された平成23年9月以降、新庁舎のオープンや旧庁舎周辺開発（ハレザ池袋）、西口再開発等の再開発が進むなど、池袋周辺地域のまちづくりを取り巻く環境が大きく変化している。
- またロードマップに従い、主に池袋駅東口を中心に、5ヵ年かけて各種検討および実証実験による検証を重ね施策展開を図っているところである。
- 平成30年5月に策定された『池袋駅周辺地域基盤整備方針』（以下、基盤整備方針）の内容を踏まえ、交通戦略の目標と基本方針は継承しつつ、周辺環境変化への対応とこれまでの取り組みの成果・課題を反映するため、交通戦略の更新を行う。

(2) 策定までのスケジュール

- 今年度（平成30年度）の交通検討部会にて更新内容を議論し、パブリックコメントの実施を経て、平成31年度（2019年度）の「第2回都市再生委員会」の承認を得て、更新版を公表することを予定する。

2. 主な更新内容

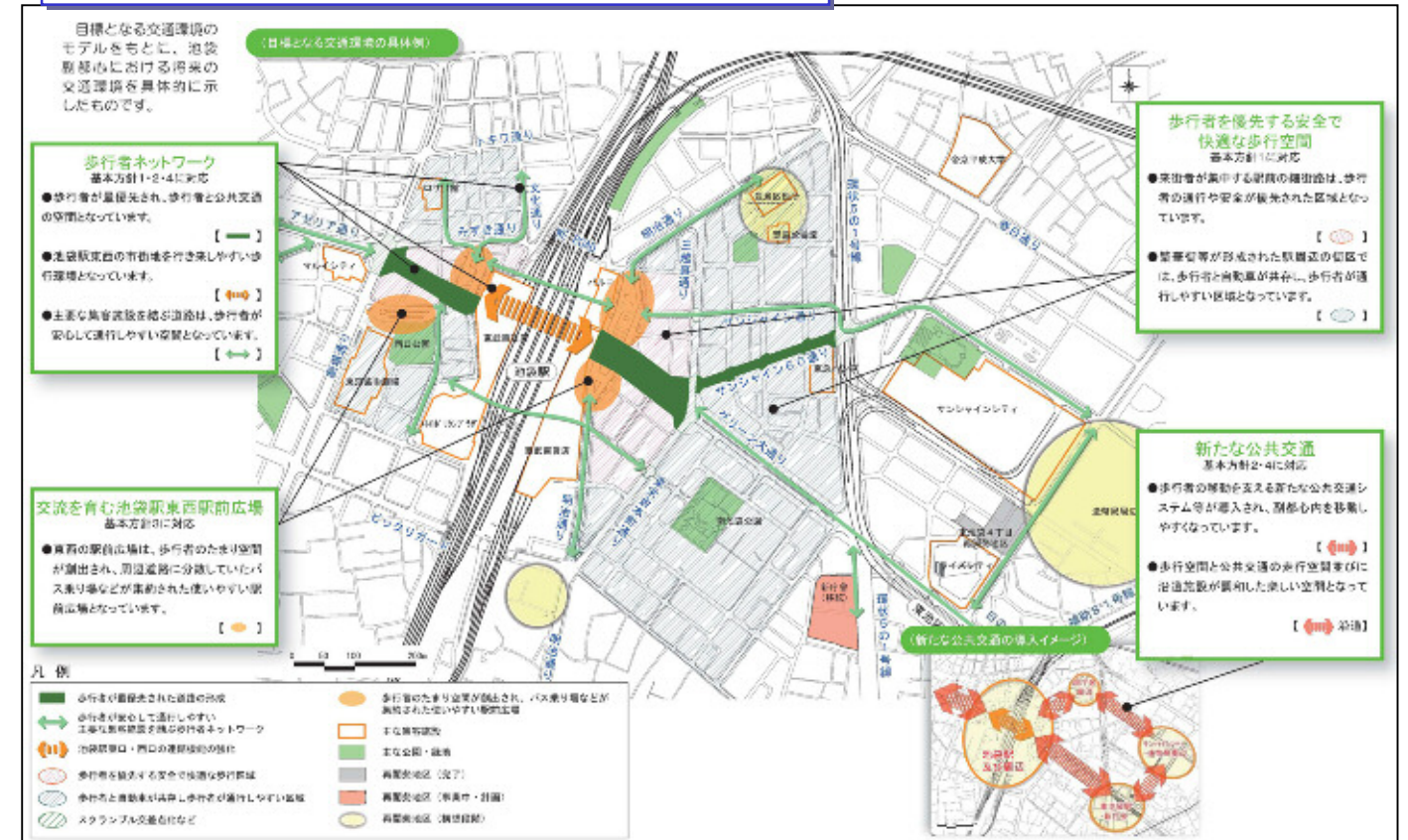
(1) 本文での主な更新内容

- 交通戦略の役割、上位計画との関係性等を再整理した。
- 数値目標の達成状況、現況値の更新をした。
- 全体としてやや複雑だった内容を分かりやすく再整理した。
- 基盤整備方針との連携及び内容の整合を図った。
- まちづくりや施策が進捗していることを受けて、より具体的に記載できるものは記載した。
- 平成23年度以降の取り組み（検討や実証実験）と結果を踏まえた施策の方向性と課題を記載した。
- H23の交通戦略では、新たな公共交通システムとして複数候補の紹介とLRT導入構想を記載していたが、加えて電気バスの導入計画を記載した。
- 交通戦略で取り組んでいく施策とロードマップを更新（より具体化）した。
- 役割分担（いつ・誰が・何をするか）を記載した。
- 目標となる交通環境の具体例の図を更新した。・・・ 以下に詳述

(2) 目標となる交通環境の具体例の図の主な更新内容

- 西口駅前再開発の進捗を受けて、西口の記載をより具体化するとともに東西連絡通路（デッキ）を記載した。東口駅前もより具体的に記載。
- ハレザ池袋、造幣局跡地開発、東池一丁目開発などの再開発や南池袋公園などの公園整備の進捗を受けて、各開発や公園への歩行者動線等を考慮して、歩行者ネットワークを更新した。（特に、南北区道とサンシャイン通りを「歩行者を最優先する道路」に設定）
- まちづくりの進捗や基盤整備方針の策定を受けて、街区の色塗りを更新した。（主に、ロサ会館周辺の街区と東池一丁目開発周辺の街区）
- 電気バスの導入エリアを記載。
- その他、基盤整備方針との整合を図った

交通環境の具体例（交通戦略策定時点）



更新版

